

韓国プラットフォーム配達業界企業経営者の 労使関係観の特徴（呉学殊氏コラムから）

- ①同業界を生態系（Ecosystem）として見ている。
- ②配達員は同業界企業経営者にとって「顧客」のセグメントの一つである。
注13）「核心顧客」。同顧客から選ばれるプラットフォーム事業者でなければならないと考えている。
- ③「デザイン思考」および「リーンスタートアップ」などのマネジメント手法を「新しい事業を次々と展開するニューリーダー」たちは共有している。
- ④リーンスタートアップ（「構築－計測－学習」というフィードバックループを通して顧客も製品・サービスも生み出し育てるマネジメント手法）を労使協議や団体交渉などの労使コミュニケーションに適用している。

【追記】独立行政法人労働政策研究・研修機構ホームページに2020年10月21日付けで掲載された呉学殊氏の緊急コラム「韓国プラットフォーム配達労働に関する画期的な協約」を参照した。新タイプの経営者（あるいは起業家）によって新タイプの労使関係が形成される可能性についての仮説である。
（2021年1月24日 林大樹）